



2024 年度 行事報告

・第 40 回研究大会(2024 年 6 月 1 日、同志社大学今出川キャンパス)

大会テーマ:「海の環境保全～コモンズのガバナンス」

報告者:

【自由論題】

座長:①～④:秋山道雄(滋賀県立大学名誉教授)、⑤～⑦:飯岡宏之(SUW 研究所代表)

①水害訴訟史における鬼怒川水害の意義—第一審水戸地裁判決を題材に

梶原健嗣(愛国学園大学)

②愛知川流域圏における地下水評価の変遷と水資源管理

秋山道雄(滋賀県立大学名誉教授)・保屋野初子(星槎大学)・東 智美(埼玉大学)

③デ=レーケの知られざる宇治川改修計画

中川晃成(龍谷大学)

④地域環境 NPO における会員層と活動層の変化

—NPO 法人「びわこ豊穣の郷」の会員アンケート調査結果の4時点比較をもとに—

山添史郎(京都府立大学大学院・滋賀県日野町役場)・野田浩資(京都府立大学)

⑤武力紛争における湿地の保護に関する国際法

仲宗根卓(宮城大学)

⑥能登半島地震における上水道の復旧と広域水道

飯岡宏之(Sustainable Urban Water 研究所代表)

⑦「メコンダイアログ」の実践と課題

大塚健司(アジア経済研究所)

【テーマ論題】

座長:小幡範雄(立命館大学名誉教授)

趣旨説明

原田禎夫(同志社大学)

①里海づくりとコモンズの復活

松田治(広島大学名誉教授)

②海の「コモンズの悲劇」はどのようにして回避するのか

原田禎夫(同志社大学)

③石垣島白保集落のサンゴ礁保全と順応的管理

三輪信哉(大阪学院大学)

総合討論:コーディネーター:仲上健一(立命館大学名誉教授)

報告記事は、[ニュースレター91号](#)に掲載しています。



・現地研究会(2024年11月10日、東京都狛江市ならびに川崎市の多摩川沿い)

報告記事は、[ニュースレター92号](#)に掲載しています。



・2024年度冬季研究会(2025年3月29日、長浜バイオ大学)
テーマ:「高時川濁水問題解決のための展望」

開会挨拶:仲上健一(当学会会長、立命館大学OIC総合研究機構上席研究員、名誉教授)

趣旨説明・会場の紹介:高橋卓也(滋賀県立大学)、仁連孝昭(長浜バイオ大学理事長)

座長解題:「高時川濁水問題の概要と論点—何が『問題』か。どう『解く』か。」

村上 悟(NPO法人碧いびわ湖・代表理事)

【基調報告】

①2022年8月豪雨後の高時川の長期濁水に関する調査の経緯

大久保卓也(滋賀県立大学・名誉教授)

②高時川の濁水長期化メカニズムと現状分析

原田守啓(岐阜大学)

③河道改変がもたらす災禍としての高時川濁水長期化問題

中川晃成(龍谷大学)

コメント①「高時川濁水問題と行政対応の適切性の観点から」

石塚武志(龍谷大学法学部・里山学研究センター)

コメント②「高時川・濁水問題について」

梶原健嗣(愛国学園大学)

閉会挨拶:秋山道雄(滋賀県立大学名誉教授)

報告記事は、[ニュースレター93号](#)に掲載しています。